様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　24 年 5 月 18 日現在

機関番号：13101
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2009～2011
課題番号：21520738
研究課題名（和文）　ドイツ近代における市民社会と国民国家、そして戦争

研究課題名（英文）　Civil Society, Nationstate and War in Modern Germany

研究代表者
松本　彰（MATSUMOTO AKIRA）
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号： 50165875

研究成果の概要（和文）：
毎年、数回の研究会を行なうと共に、2009 年にはドイツ中部、2010 年にはドイツ南西部およびベルリン、2011 年 9 月には、オーストリアを調査し、多くの成果を得ることができた。2011 年度には、歴史民俗博物館のプロジェクトと共に最近の国民国家論についての研究会を行ない、総括的な議論を行なった。「ドイツ近代における市民社会、国民国家、そして戦争」を検討するための基礎作業を行なうことができた。

研究成果の概要（英文）：
We carried out several times of workshops each year. In addition, we made field investigations; in central Germany in 2009, southwestern Germany and Berlin in 2010, Austria in September 2011, and obtained many fruitful results. In summer of 2011, we carried out a comprehensive discussion over the subject of recent study of nation-state with a group of the project of National History and Folklore Museum. I was able to conduct a basic study of the "civil society, nationstate and war in modern Germany."

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総　計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：　人文科学系
科研費の分科・細目：ヨーロッパ史、アメリカ史
キーワード：　ドイツ統一、ドイツ帝国、オーストリア

１．研究開始当初の背景
2007 年、新潟おいて開催された日本西洋史学会第 57 回におけるシンポジウム「国民国家とアイデンティティ複合－中欧における帝国、国民、民族」を一つの契機とし、「ドイツにおける市民社会、国民国家、および戦争」をテーマとし、「19 世紀のドイツ統一」を中心に、ドイツ史研究を再検討することをめざして研究を組織した。

２．研究の目的
1990 年の東西ドイツ統合以後、ドイツでは 19 世紀のドイツ統一をめぐる研究は活発化し、新しい状況が生まれた。それらの研究をふまえて、「19 世紀のドイツ統一」を再考することを課題とした。
「19 世紀のドイツ統一」については、長い

研究史があるが、20 世紀におけるナチズムの時代の大ドイツとしての「1938 年のドイツ統一」を経て後の東西ドイツへの分裂、その後の 1990 年の「20 世紀のドイツ統一」をふまえて、「小ドイツ主義」による、ビスマルクによる統一をどのように理解するか、改めて問われており、多面的な分析をすすめること課題とした。

３．研究の方法

1） 年、数回の独自の研究会を組織し、若手研究者を招いて、最新の研究動向について理解を深める。
2） 関係する諸学会、諸研究会との交流を積極的にすすめる。
3） ドイツ統一を多面的に考察するため、ドイツ各地の調査を共同で行なう。

こととし、実施した。

４．研究成果

2009 年８月 19 日から 26 日まで、代表者松本　彰、連携研究者野村真理、森田直子は、ドイツ中部地方（テューリンゲン州、ザクセン・アンハルト州、ザクセン州）の調査を行った。ライプツィヒ諸国民戦争記念碑と記念館、市庁舎におけるライプツィヒ大学創立 600 周年記念展示、アイゼナハのバッハ記念館、ヴァルトブルク、ブルシェンシャフト記念碑、デーリッチュのシュツルツ=デーリッツ記念館、ケーテンのバッハ記念館、博物館、フライブルクのヤーン記念館、ドレースデンの衛生博物館、歴史博物館、デッサウのモーデス・メンデルスゾーン記念館（デッサウにあったバウハウス運動で作られたジードルングの一部にあり、バウハウス運動についても理解を深めることができた）、ユダヤ人墓地など重要な史跡、資料館を調査し、多く成果を得た。ハレ大学において、ハレ大学＝東京大学の共同大学院プロジェクト（IGK）との研究交流も行った。

12月5日に連携研究者丸畠宏太が参加している科学研究費プロジェクト「ヨーロッパの中の軍隊」主催の研究会で、松本は報告「近代ドイツにおける戦死者の記念－戦争墓と栄誉の碑・警告の碑」を行い、ハレ大学から招いたティノ・シェルツ氏がコメントを行った。

2010 年 1 月 11 日に新潟でプロジェクト研究会を行い、代表者、連携研究者全員が参加して、ゲストとして研究協力者東大院生穐山洋子氏の報告と討論、夏の研究調査旅行の総括と今後の課題について、議論した。

2 月 20 日、日本音楽学研究会において、松本は「19 世紀ドイツの市民社会と国家」、「市民社会と芸術－音楽におけるコメモレーション」の報告を行った。

前記の「ヨーロッパの中の軍隊」プロジェクトは 3 月 21,22 日にも、ドイツからポツダム大学教授ラルフ・プレーヴェ、プロイセン枢密古文書館館長ユルゲン・クロースターフース氏を招いて、国際シンポジウム「「新しい軍事史」の課題と方法」を開催した。丸畠宏太はこの企画に中心的に関わり、司会などを行ない、ハレ大学のティノ・シェルツ氏も通訳として参加した。

2010 年 8 月、研究プロジェクトのメンバーの研究会を新潟大学で行なった。連携研究者丸畠宏太の報告を中心に「市民社会と国民国家、そして戦争」をめぐる研究状況の現在について討議した。

2010 年 9 月 17 日から 21 日まで、研究代表者松本　彰、研究分担者森田直子、連携研究者丸畠宏太は、ドイツ南西部の調査を行なった。とくにフォイヒトヴァンゲンの合唱博物館・資料館、シュトットガルト近郊のジルヒャー博物館、ヘヒンゲンのホーエンツォレルン城、シュトゥットガルトのバーデン・ヴュルテンベルク州歴史の家を調査した。合唱博物館、ジルヒャー博物館は、19 世紀のドイツの社会運動の中で重要な意味を持つ、男声合唱運動の研究の中心になっているところで、博物館の展示も充実しており、研究スタッフの案内で、当時の協会運動の詳細を知る

ことができた。ホーエンツォレルン城は、プロイセン王室の源だが、18 世紀には廃墟になっていた。再建されたのは 19 世紀であり、プロイセンと「南西ドイツ」の関係を考える上では興味深い歴史的建造物であった。バーデン・ヴュルテンベルク州歴史の家では、「ドイツ統一と南西ドイツ」を考察するための多くの手がかりを得た。

2010 年度は、連携研究者北村昌史がベルリンに留学し、ブルーノ・タウト研究を行なった。ベルリンでは彼が住んでいたタウトが設計したジードルングを知ることができ、たいへん有意義であった。

2011 年 4 月に研究プロジェクトのメンバーの研究会を新潟大学で行なった。北村氏の研究の成果についての報告と共に、本年度は、最終年度で、基本テーマを「ドイツ統一とオーストリアとし、若手研究者にも報告を依頼し、今年度の研究の方針を検討した。

6 月 25 日、新潟朱鷺メッセで行なわれた日本ドイツ学会でのシンポジウム「音楽の国ドイツ？」において、代表者松本は報告「「音楽の国ドイツ」の成立と崩壊」を行なった。文化を含めて「ドイツ統一とオーストリア」を検討する場合、重要な論点である。

2011 年 8 月 1 日、東京経済大学において、千葉大学の小沢弘明、趙　景達氏を招いて、最近の国民国家研究について、とくに国立歴史民俗博物館のプロジェクトが行なってきた国民国家研究について、総合的に検討する研究会を開催した。プロジェクトのメンバーと共に、東京、大阪の若手研究者も参加して活発な議論ができ、大きな成果を得た。

9 月に、研究代表者松本　彰は、オーストリアで在外研究を行なっていた連携研究者野村真理と、シュタイアマルク州の州都グラーツ、ケルンテン州の州都クラーゲンフェルトの調査を行なった。「ドイツ統一問題とオーストリア」を検討するための歴史的理解にとって貴重な成果を得た。グラーツは 1848 年革命の時の帝国摂政ヨハン大公の地元で、ドイツ・オーストリア関係を象徴する地であり、クラーゲンフェルトは第一次世界大戦後に住民投票によって国境画定を行なった地域として、以前から調査してきた北端のドイツ・デンマーク国境と対比して、ドイツの国境地域のトランスナショナルな状況が興味深かった。

12 月 10 日の早稲田大学西洋史研究会に招かれ、シンポジウム「ナショナリズム再考」において、「19 世紀ドイツにおける市民社会、国民国家、戦争」を報告した。これまでこのプロジェクトで行なってきた研究をまとめ、1860 年代の協会運動をナショナリズム史の中で問題にした。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）
〔雑誌論文〕（計 13 件）

① 松本　彰、2012, 「音楽の国ドイツ」の成立と崩壊, ドイツ研究, 46, 6-18.
② 丸畠宏太、2012、人民武装・徴兵制・兵役義務と 19 世紀ドイツの軍制―概念史的考察、19 世紀学研究、6、99-116
③ 北村昌史、2012,互酬制からみた近代ドイツ社会―結社と社会国家,パブリックヒストリー』9, 54-63.
④ 丸畠宏太、2011「ドイツ陸軍―ドイツにおける「武装せる国民」の形成」、三宅正樹/石津朋之/新谷　卓/中島浩貴編『ドイツ史と戦争―「軍事史」と「戦争」』彩流社、205-229.
⑤ 森田直子、2011、「19 世紀学」・ヨーロッパ・歴史学―オスターハンメル『世界の変貌：　一つの 19 世紀史』を手掛かりに、『19 世紀学研究』、5、127-144.
⑥ 森田直子、2010「ドイツの歴史学と『環境史』」（水島司 編『環境と歴史学』（勉誠出版、90ー95.
⑦ 森田直子、2010、「19 世紀の Delius と 21 世紀の Delius」、Echo、26、25ー27.
⑧ 森田直子、2010、「Einleitung」, Jahresblaetter für japanische und deutsche Forschung in Japan, 5 , i-iv.
⑨ 野村真理、2010、1941 年リーガのユダヤ

人とラトヴィア人―ラトヴィア人のホロコースト協力をめぐって(後篇),金沢大学経済論,30-2，175-200.

⑩ 丸畠宏太、2010「帝政期ドイツにおける徴兵検査の実像―徴兵関係資料を手がかりに」、阪口修平編『歴史と軍隊―軍事史の新しい地平』創元社、85-121.

⑪ 松本　彰、2009、ドイツ記念碑論争、ドイツ研究、43，4-18.

⑫ 野村真理、2009、1941 年リーガのユダヤ人とラトヴィア人―ラトヴィア人のホロコースト協力をめぐって(前篇)、金沢大学経済論集、30-1,219-246.

⑬ 丸畠宏太、2009「兵役・国家・市民社会―19 世紀ドイツの軍隊像と軍隊体験」『軍隊』ミネルヴァ書房、249-291

〔学会発表〕（計 6 件）

① 松本　彰、2011　12.10. 早稲田大学西洋史研究会、19 世紀ドイツにおける市民社会、国民国家、戦争―協会運動と三重のナショナリズム、於：早稲田大学.

② 松本　彰、2011　6.25.、日本ドイツ学会、「音楽の国」ドイツの成立と崩壊―市民社会・国民国家・音楽、於：　朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンター

③ 松本　彰、2011　5.29.　イギリス史研究会、ドイツにおける戦争墓と戦争記念碑（栄誉の碑と警告の碑）－第一次世界大戦後を中心に－　於：　青山学院大学

④ 松本　彰、2010　11.7.日本音楽学会、音楽・国民国家・コメモレーション、　於：愛知芸術文化センター

⑤ 松本　彰、2009　12.5　「ヨーロッパの中の軍隊」、近代ドイツにおける戦死者の記念－戦争墓と栄誉の碑・警告の碑」於：駒澤大学

６．研究組織

(1)研究代表者

松本　彰（MATSUMOTO AKIRA）

新潟大学・人文社会・教育科学系・教授

研究者番号：50165875

(2)研究分担者

森田直子（MORITA NAOKO）

新潟大学・人文社会・教育科学系・特任助教

研究者番号： 30452064

(3)連携研究者

野村真理（NOMURA MARI）

金澤大学・経済学経営学系・教授

研究者番号：　20164741

丸畠宏太（MARUHATA KOTA）

敬和学園大学・人文学部・教授

研究者番号：　20202335

北村昌史（KITAMURA　MASASHI）

大阪市立大学・文学部・教授

研究者番号：　20242993

(4)研究協力者

長沢優子（NAGASAWA　YUKO）

東京大学・大学院総合文化研究科・大学院生

穐山洋子（AKIYAMA　YOKO）

東京大学・大学院総合文化研究科・大学院生